

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

平成31年 2月21日 (木)

2 確認箇所

- ・既設多核種除去設備
- ・地下水バイパス揚水井No. 5～10

3 確認項目

- (1) 既設多核種除去設備 (C) クロスフローフィルター2付近の配管フランジ部からの漏えい状況
- (2) 地下水バイパス揚水井の状況

4 確認結果の概要

- (1) 既設多核種除去設備 (C) クロスフローフィルター2付近の配管フランジ部からの漏えい状況

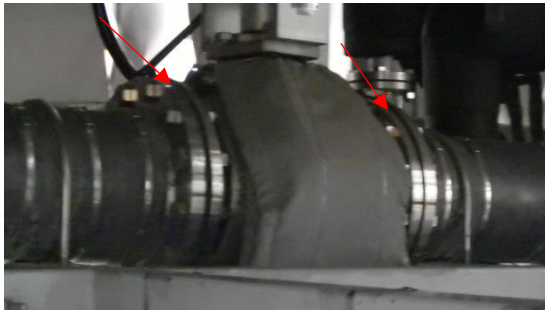
本日、10時32分頃に既設多核種除去設備 (C) の前処理設備であるクロスフローフィルター2付近の養生シート上に水溜まりがあることを協力企業作業員が発見したことから現場の状況を確認した。

- ・現場到着時 (12時頃)、漏えいは停止していた。
- ・東京電力によれば滴下した範囲は約1m×0.5m×深さ2mmとのことであったが、確認時、滴下した水はほぼ乾いており、水溜まりは視認できなかった。(写真1)
- ・漏えい発生箇所はクロスフローフィルター2へ送水する循環ポンプ2吐出弁の入口側と出口側のフランジ部の2箇所であり、いずれも堰内であった。
- ・東京電力によると漏えいした水は、直前に行っていたクロスフローフィルターの洗浄に使った水と推定しており、今後漏えいの発生原因を調査し、必要な対策を講じていくとのことであった。



(写真1)

ピンクの養生シート付近を確認したが水溜まりは視認されなかった。



(写真2)
矢印で示す箇所が、今回漏えいが発生したフランジ部

(2) 地下水バイパス揚水井の状況

地下水バイパス揚水井の点検清掃に用いられる槽について、仮設槽から、より安全性の高い本設槽にリプレースされたことから、その状況について確認した。

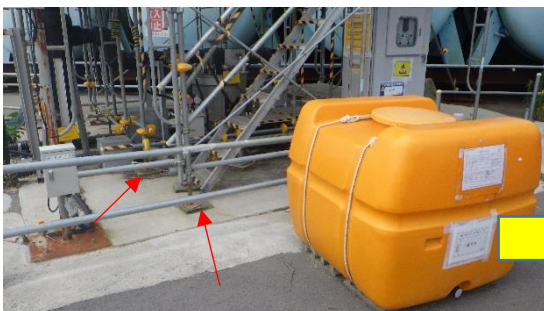
- ・単管パイプで組み立てられた仮設の槽から鉄骨の本設槽にリプレースされていた。(写真3)
- ・仮設槽と異なり、本設槽は地面にボルトが打たれ、固定されていた。(写真4)



(写真3-1) 平成30年7月4日

(写真3-2) 平成31年2月21日

揚水井 No. 9 を一例として表示



(写真4-1) 平成30年7月5日

(写真4-2) 平成31年2月22日

揚水井 No. 10 を一例として表示

(矢印は槽と地面の接地部分を示す)

5 プラント関連パラメータ等の確認

各パラメータについて、異常な値は確認されなかった。